

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年1月27日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	2月1日(日) 13:00~17:00	京都芸術大学	公開シンポジウム「日本文学と藍」
2	2月1日(日) 13:30~16:30	オンライン開催	公開シンポジウム「人類学者と語る「他者理解」」
3	2月6日(金) 13:00~17:05	オンライン開催	公開シンポジウム「沿岸養殖の現在地と持続可能な未来—データで問い合わせ直す日本の養殖業—」
4	2月7日(土) 13:00~16:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「高齢者に優しいまちづくり：現場・自治体から学ぶ」
5	2月11日(水・祝) 10:00~17:25 2月12日(木) 9:20~15:50	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	国際会議「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2025『将来の学術を担う若手研究者を中心とした研究力強化と頭脳循環を目指して』」
6	2月14日(土) 13:00~15:30	オンライン開催	公開シンポジウム「みる・きく・はなすの老化と視覚・聴覚最先端治療」
7	2月15日(日) 13:00~16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「動物科学の最前線：めぐるめぐる多様性を科学する（4）」
8	2月17日(火) 13:00~16:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「AI時代における統計科学・データサイエンスの役割と挑戦 ---公平性、信頼性、解釈可能性、AIガバナンスの観点から」
9	2月18日(水) 13:00~17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「炭素中立社会への賢明かつ公正な移行に向けた産官学連携の実践」
10	2月21日(土) 10:30~17:35	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「STEM分野の未来を支える多様性とは：教育・探究・キャリアをつなぐ対話--理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？家庭？地域？」
11	2月21日(土) 13:00~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「One Health時代における獣医学の使命—くらし・いのち・地球を繋ぐ—」
12	2月21日(土) 13:30~16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「いま、「排外主義」を考える～共に生きる社会は可能か」
13	2月23日(月・祝) 14:00~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「Naturebased Solutions：自然に根ざした社会問題の解決に向けて」
14	2月28日(土) 13:30~17:00	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「今こそジェンダー主流化を」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・

公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



日本学術会議言語・文学委員会
日本文学の伝統と現代社会分科会

参加費無料
(定員100名)

公開シンポジウム

日本文学

藍

2026年
2月1日(日) 13:00~17:00
(12:30開場)



江戸時代、藍は産業として日本全国に広がり、江戸の街では「藍四十八色」が誕生して、鮮やかな藍色が人々を魅了しました。明治後期に安価で手軽な化学染料の登場によって危機に瀕したもの、現在ふたたびその素晴らしさに目が向けられ、ジャパン・ブルーと呼ばれて世界でも高く評価されています。本シンポジウムでは、こうした藍の色が、文学の中でどのようなイメージをもって捉えられてきたのか、奈良時代から現代にいたるまでのさまざまな文学作品を通して考え、日本人の色彩感覚や文化背景、生活と藍との関わりを探ります。

～プログラム～

- 13:00 挨拶 吉岡 洋（京都芸術大学文明哲学研究所教授）
13:05 講演 「日本古典文学に見る藍」 植木 朝子（同志社大学文学部教授）
14:30 講演 「日本近現代文学に見る藍」 有元 伸子（広島大学名誉教授）
16:00 討論 吉岡 洋・植木 朝子・有元 伸子

申込はこちら

先着順

締切日

2026年1月23日(金)

<https://forms.gle/TdxnLfxkc1FqtDCu5>



合理的配慮が必要な方は
2026年1月16日(金)
までにご連絡ください。
ご要望内容を検討のうえ、
できる限りの対応をさせて
いただきます。

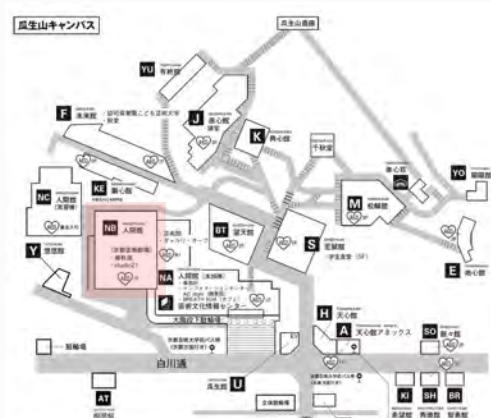
会場

京都芸術大学

京都市左京区北白川
瓜生山2-116

人間館3階（本部棟）
NA302教室

駐車場はございません。
会場へは公共交通機関をご利用ください。



問合先：日本文学と藍シンポジウム事務局



人類学者と語る「他者理解」

グローバル社会の人間関係はどうあるべきか？

人類学者5人の視点と高校生の疑問を交差させ、共に考える特別企画

2026年 2月1日(日) 13:30～16:30

Zoomオンライン開催
参加無料・要事前登録・定員

どなたでもご参加いただけます
参加登録はこちら(1/25まで) →



プログラム

13:00 開場

13:30 開会挨拶

13:40 第一部 人類学者からの話題提供

基調講演 ヒトは他者との付き合いをどのように進化させてきたか
山極 壽一（総合地球環境学研究所・所長）

話題① 人類史が教えてくれる他者理解のための鍵
海部 陽介（東京大学・教授）

話題② 「私たち」の範囲はどう変わってきたか—考古学から探る—
松本 直子（岡山大学・教授）

話題③ ナニジンって、何で決めるの？—横浜中華街から考える—
陳 天璽（早稲田大学・教授）

話題④ 「日本人」「外国人」というカテゴリー
竹沢 泰子（関西外国語大学・教授）

15:00 休憩

15:15 第二部 質疑応答・全体討論
人類学者 X 高校生 司会：高校生2名

16:30 閉会

近年、国際化が急速に進んでいく反面、外国人に対する排外主義の動きも目立ってきています。そもそも人は、日常生活の中の様々なレベルで、他者や他集団と交流し、そこから学び、時に摩擦や不安を感じ、葛藤しながら生きています。人間の宿命にもみえるこの重要かつやっかいな課題と、私たちはどのように向き合うべきなのでしょう？

問題の本質を理解するには、人間（ヒト）の社会の特殊性、人間集団間の交流と争いの歴史、差別と区別の現状などを探究する、靈長類学、自然人類学、考古学、文化人類学を含む人類学諸分野の視点が有効なはずです。本シンポジウムでは、専門の異なる5人の人類学者が高校生たちと語り合いながら、共同で、他者や他集団の理解と対人関係のあるべき姿を探ります。

講師紹介

山極 壽一（やまぎわ じゅいち）：靈長類学

総合地球環境学研究所所長。京都大学理学部で靈長類学を学び、京都大学総長、日本学術会議会長を歴任。アフリカでゴリラの社会生態の調査とともに、人類の社会進化の歴史を考察している。著書に『共感革命』、『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』など。



海部 陽介（かいふ ようすけ）：人類進化学

東京大学総合研究博物館教授。東京大学で生物人類学を学び、国立科学博物館を経て、2020年より現職。約200万年におよぶアジアの人類史を研究。「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」（国立科学博物館）代表。著書に『人間らしさとは何か』、『サピエンス日本上陸』など。



松本 直子（まつもと なおこ）：考古学

岡山大学文明動態学研究所教授。縄文から弥生への変化についての認知考古学の研究で学位を取得（九州大学）。ジェンダー考古学にも関心がある。学術変革領域研究「マテリアマインド」代表。著書に『認知考古学とは何か』、『縄文のムラと社会』など。



陳 天璽（ちん てんじ）：文化人類学

早稲田大学国際教養学部教授。NPO法人無国籍ネットワーク発起人。横浜中華街生まれ。筑波大学国際政治経済学博士。ハーバード大学研究員、日本学術振興会（東京大学）研究員、国立民族学博物館准教授を経て現職。著書に『華人ディアスpora』、『無国籍と複数国籍』、Statelessなど。



竹沢 泰子（たけざわ やすこ）：文化人類学

関西外国语大学国際文化研究所所長。京都大学名誉教授。研究テーマは、人種・民族・移民など。近年は、本務校以外でもアメリカ・フランス・ドイツ等において客員教授として授業・講演を行い、国際発信を続けている。著書に『日系アメリカ人のエスニシティ』、『アメリカの人種主義』など。



沿岸養殖の現在地と持続可能な未来

—データで問い合わせ直す日本の養殖業—

令和8年2月6日（金）13:00～17:05
オンライン開催【参加費無料】

参加申込サイト

<https://forms.gle/f8TyJPVWWd3h29Yr6>参加登録用QRコード
Symposium

Science Council of Japan

プログラム

13:00～ 開会挨拶

大越 和加（日本学術会議会員/東北大学大学院農学研究科教授）

13:05～ 趣旨説明

萩原 篤志（日本学術会議連携会員/長崎大学名誉教授）

セッション1「環境負荷の実態と養殖の持続性」

座長 伊藤 進一（東京大学大気海洋研究所海洋生物資源部門教授）

13:10～ 赤潮・貧栄養化への海の流れの影響

青木 一弘（国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所主任研究員）

13:40～ 養殖業における選抜育種

細谷 将（東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所助教）



セッション2「海産飼料原料の持続性」

座長 今田 千秋（東京大学大気海洋研究所客員教授）

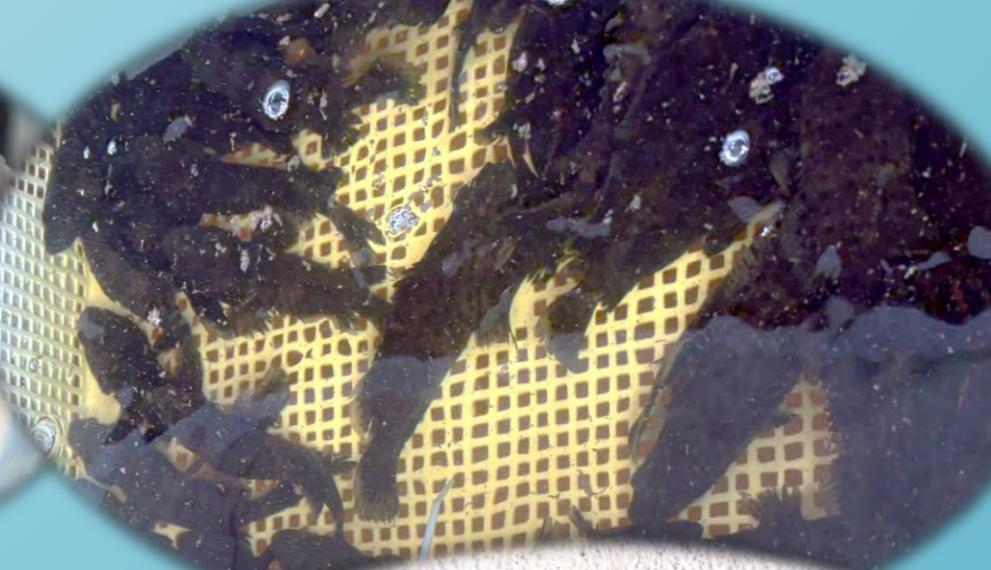
14:10～ 養魚用飼料と原料動向について

山門 光孝（林兼産業株式会社事業統括本部飼料事業部営業部長）

14:40～ 持続可能な養魚用飼料の評価方法と飼料開発

佐藤 秀一（日本学術会議連携会員/福井県立大学海洋生物資源学部教授）

15:10～15:20 休憩時間



セッション3「担い手確保と地域継続性」

座長 波積 真理（熊本学園大学商学部教授）

15:20～ 沿岸養殖に関わる担い手と地域の変化と課題

三木 奈都子（国立研究開発法人水産研究・教育機構理事）

15:50～ 現場から見えるつなぐ力

深川 沙央里（株式会社クリエーションWEB PLANNING代表取締役）



16:20～ パネルディスカッション「沿岸養殖の基盤を立て直すには」

モデレーター ハ木 信行（日本学術会議連携会員/東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

パネリスト 三木 奈都子（国立研究開発法人水産研究・教育機構理事）

深川 沙央里（株式会社クリエーションWEB PLANNING代表取締役）

副島 久実（摂南大学農学部准教授）

林 陽子（神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター農政部地域農政推進課主査）

浪井 大喜（浪井丸天水産代表）

17:00～ 閉会の挨拶

ハ木 信行（日本学術会議連携会員/東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

主催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会

共催：水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、公益社団法人日本水産学会

後援：一般社団法人大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、一般社団法人水産海洋学会、日本付着生物学会、一般社団法人日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、一般社団法人日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会

お問い合わせ先
高須賀 明典
atakasuka(a)mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
※(a)を@にしてください



日本学術会議主催学術フォーラム

高齢者に優しいまちづくり ～現場・自治体から学ぶ～

日時：令和8年2月7日(土)13:00～16:00

参加費無料

場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）オンライン配信あり
東京都港区六本木7-22-34

事前参加登録をお願いします

申し込み締切 1/31

申し込みフォームURL <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0348.html>



「エイジフレンドリーシティ」は世界保健機関（WHO）が提唱する、すべての世代が安心して暮らせる地域づくりを目指す国際的なネットワークです。本フォーラムでは、都市部と過疎・高齢化が進む地域の先進的な取り組みを紹介し、「なぜ実現できたのか」「何がまだ足りないのか」「他の地域へどう広げるか」をテーマに、自治体・地域団体・アカデミアが一体となって議論します。

日本の未来を見据えた、持続可能なまちづくりのヒントを探ります！

次 第

コーディネータ 森山美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）

総合司会 飯島 勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）
伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター理事長）

13:00 開会の挨拶・趣旨説明 森山美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）

13:10 概要紹介『エイジフレンドリーシティについて』

神田 美希子（WHO西太平洋事務局WPRO Healthy Environments and Populationsテクニカルリード）

事例紹介

13:25 『神奈川県内のエイジフレンドリーシティの取り組み』

曾我部 勇貴（神奈川県政策局いち・未来戦略本部室国際戦略グループ）

熊澤 大輔（神奈川県立保健福祉大学イノベーション政策研究センター研究員）

後藤 純（東海大学建築都市学部 准教授／UDCOD(アーバンデザインセンター小田原) 副センター長）

秋山 弘子（東京大学名誉教授／高齢社会共創センター長／鎌倉市政策創造専門委員）

14:15 『奈良県天川村（地方部）の取り組み』

山端 聰（奈良県吉野郡天川村議会議員）

14:30 『広島県吳市（島嶼部）一般社団法人まめなの取り組み』

更科 安春（一般社団法人まめなFounder）

14:45 『自治体保有データとオープンリソースデータの突合解析による政策立案事例』

佐藤 栄治（宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科教授）

15:00 休憩

総合討論

15:15 総合司会 飯島 勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター理事長）

15:55 閉会の挨拶 須田 木綿子（日本学術会議連携会員／東洋大学社会学部社会学科教授）

16:00 閉会

主催：日本学術会議

お問い合わせ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL 03-3403-6295



持続可能な社会のための
科学と技術に関する国際会議 2025

将来の学術を担う 若手研究者を中心とした 研究力強化と頭脳循環を目指して

2026.2.11(水祝) — 12(木)

ハイブリッド開催 (会場: 日本学術会議講堂、オンライン: 申込者にURL送付)

【言語】日本語・英語(同時通訳あり) 【定員】対面200名/日、オンライン600名/日

【主催】日本学術会議(国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025分科会)

【後援】内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 / 外務省 / 文部科学省 / 経済産業省

我が国が国際的に遜色のない研究力を発揮していくために、海外の第一線の大学・研究機関で活躍している研究者をロールモデルとして、こうした研究者がこれまでの活動から得た知見やそれに基づく提案を共有し議論を深めるとともに、世界規模で進行している国際頭脳循環の動向も十分に踏まえた上で、戦略的な研究人材の派遣や受け入れ等の対応について議論を行います。

2.11(水祝)

プログラム

10:00-11:55 ▶ オープニング

プログラム詳細
はこちら



基調講演① ウィルフレッド・ファン・デル・ウィール
トゥウェンテ大学ナノエレクトロニクス学科教授
脳啓発ナノシステム BRAINSセンター所長

基調講演② 深見 理

スタンフォード大学生物医学科教授及び地球システム科学科教授
東京大学先端科学技術研究センター客員上席研究員
横浜国立大学総合学術高等研究院招聘教授

13:30-17:25 ▶ パネルディスカッション① 「若手研究者の研究力強化」

2.12(木)

9:20-13:00 ▶ パネルディスカッション② 「国際頭脳循環の促進」

14:00-15:30 ▶ 統合セッション

15:30-15:50 ▶ クロージング

参加費
無料
託児所あり

お問い合わせ
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025事務局
(株式会社プライムインターナショナル)
TEL: 03-6277-0117 / E-mail: icsts2025@pco-prime.com
営業時間: 10:00-17:00 (土・日・祝日・年末年始(12月27日~1月4日)は休業)
※休業日、営業時間外にお送りいただいたメールへのご返信は翌営業日以降となります。

🌐 <https://www.scj.go.jp/ja/int/kaisai/jizoku2025/ja/>



会場参加
オンライン



参加登録はこちら

みる・きく・はなすの老化と 視覚・聴覚最先端治療

日時 2026年2月14日 土 13:00～15:30

web
開催

参加費
無料

【開会挨拶】西田 幸二（日本眼科学会理事長 / 大阪大）

【シンポジウム】

司会 山嶋 達也（連携会員 / 感覚器分科会副委員長 / 東京通信病院）
寺崎 浩子（連携会員 / 感覚器分科会委員長 / 名古屋大）

1 加齢による機能障害

のどの加齢 熊井 良彦（長崎大）
眼の加齢 根岸 一乃（連携会員 / 慶應大）

2 認知機能と感覚器疾患

難聴 内田 育恵（愛知医大）
視力低下 平塚 義宗（順天大）

3 感覚機能障害の回復治療最先端

人工聴覚器 工 穣（信州大）
光遺伝学を用いた視覚再生 栗原 俊英（慶應大）

コメント・ディスカッション ファシリテーター
松本 有（連携会員 / 感覚器分科会幹事 / 東京警察病院）
五味 文（会員 / 感覚器分科会幹事 / 兵庫医大）
外園 千恵（連携会員 / 京都府医大）

【閉会挨拶】大森 孝一（日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会理事長 / 京都大）

お申し込み方法

こちらの QR コードからアクセスしお申込みください。



お問い合わせ

公開シンポジウム運営事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-4-7 スタッフルームタケムラ（有）内

E-mail : info@staffroom.jp TEL : 03-5287-3801 (平日 10:00 ~ 16:00)



公開シンポジウム
**動物科学の最前線：
めくるめく多様性を科学する(4)**

2026年2月15日(日)13:00-16:00

Zoomオンライン開催 参加費無料 要事前登録

郡司 芽久(東洋大学生命科学部生命科学科 助教)

キリンの身体に秘められた謎を解くー動物園・博物館・大学の連携研究ー

豊田 賢治(広島大学大学院統合生命科学研究科 助教)

寄生性甲殻類フクロムシの生物学

佐藤 拓哉(京都大生态学研究センター 准教授)

寄生虫ハリガネムシ類による寄主昆虫の行動操作

沓掛 磨也子(産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門 副部門長)

昆虫が植物の形を操作するーアブラムシにおける社会性と虫こぶ形成ー

鈴木 俊貴(東京大学先端科学技術研究センター 准教授)

シジュウカラ語の発見と動物言語学の挑戦

参加登録
はこちら
2月6日17時
締切



AI時代における統計科学・データサイエンスの役割と挑戦

—公平性、信頼性、解釈可能性、AIガバナンスの観点から

日時 令和8年(2026年)2月17日(火)13:00～16:30

場所 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34) ハイブリッド開催

AI技術が社会や産業に急速に浸透しつつある現代において、統計学やデータサイエンスは、AIシステムの設計や運用においてどのような役割を果たし、どのような課題に取り組むべきであろうか。この議論を「公平性」「信頼性」「解釈可能性」「AIガバナンス」の観点から掘り下げる。また、AI技術の日常生活への浸透を踏まえて、初等中等教育における統計教育に期待されることは何かを議論する。

PROGRAM

13:00 開会挨拶 青嶋誠(日本学術会議連携会員、筑波大学数理物質系教授)

第一部講演

司会 佐藤忠彦(日本学術会議連携会員、筑波大学ビジネスサイエンス系教授)

13:15 深層学習モデルの統計的推論

—選択的推論のアプローチから—

竹内一郎(名古屋大学大学院工学研究科 機械システム工学専攻 機械知能学 教授、理化学研究所 革新知能統合研究センター データ駆動型実験デザインチームディレクター)

13:45 AIにおけるバイアスと公平性

荒井ひろみ(理化学研究所 革新知能統合研究センター 人工知能安全性・信頼性ユニットユニットリーダー)

14:15 初中等教育・高等教育における新たな統計教育と探究的活動

椿広計(日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設副施設長)

第二部パネルディスカッション

司会 松井知子(日本学術会議連携会員、早稲田大学招聘研究員)

15:00 AIの不確実性への挑戦 —高次元小標本の統計学からのアプローチ

青嶋誠(日本学術会議連携会員、筑波大学数理物質系教授)

15:15 医療統計学の観点から

松山裕(東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 生物統計学分野教授)

15:30 AI時代の統計科学の構築と展開—

理論・学際・社会をつなぐ

荒木由布子(日本学術会議連携会員、東北大学大学院情報科学研究科教授)

15:45 総合討論

16:25 閉会挨拶 西郷浩(日本学術会議連携会員、早稲田大学政治経済学部教授)

【お申し込み】



主催

日本学術会議数理科学委員会数理統計学分科会、数理科学委員会数学教育分科会、数理科学委員会数学分科会、情報学委員会情報学教育分科会

共催

特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合、一般社団法人統計関連学会連合、一般財団法人統計質保証推進協会

後援

応用統計学会、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人人工知能学会、一般社団法人日本経済学会、一般社団法人日本計算機統計学会、一般社団法人日本計量生物学会、日本行動計量学会、一般社団法人日本数学会、一般社団法人日本統計学会、一般社団法人日本品質管理学会、日本分類学会

<https://x.gd/rzd5XS>



日本学術会議主催学術フォーラム

炭素中立社会への 賢明かつ公正な移行に向けた 産官学連携の実践



カーボンニュートラル（炭素中立）の実現には、あらゆる部門での排出削減と広範な削減策の導入が必要である。同時に、炭素中立はどのような社会・経済の上に実現し得るのか、自然資本の回復を含む循環型で持続可能な社会のビジョンをいかに作り上げ、共有していくか、それに必要な課題は何かなど、学術の観点から検討すべき課題は多い。こうした問題意識のもとに、第26期に設置された課題別委員会が中心となり、提言「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集－循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換－」をとりまとめ、2025年10月に公表した。7項目にわたる提言のうち、提言4「政策・対策の社会実装における学術の役割」に挙げたとおり、他の主体との連携のもとに、提言に盛り込んだ内容の「社会実装」を進めることが学術界の重要な役割である。

令和8年

2月18日水
13:00～17:30

参加費無料



本学術フォーラムは、提言で掲げた炭素中立社会への「公正かつ賢明な移行」に焦点をあて、学術、行政、産業界を含む幅広い視点から議論を深め、提言の実現のための各主体の具体的取り組みについて理解を深める機会として開催する。



会場 日本学術会議講堂
東京都港区六本木 7-22-34

ハイブリッド
開催

お申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0355.html>
申込締切 令和8年2月13日(金) 事前参加登録をお願いします。





日本学術会議主催学術フォーラム

炭素中立社会への賢明かつ公正な移行に向けた産官学連携の実践

コーディネーター 司 会
森口 祐一

(日本学術会議第三部会員、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会／東京大学名誉教授)

スケジュール

13:00～13:05	開会挨拶	
	三枝 信子	(日本学術会議第三部会員・副会長／国立研究開発法人国立環境研究所理事)
13:05～13:15	趣旨説明	
	森口 祐一	(日本学術会議第三部会員、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会／東京大学名誉教授)
13:15～13:45	基調講演「気候変動の現状・将来予測と対策加速の必要性」	
	江守 正多	(日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授)

第一部 関係府省庁における取組

13:45～14:15	「炭素中立社会への転換に向けた環境省の取組と学術界への期待」	
	杉井 威夫	(環境省地球環境局地球温暖化対策課長)
14:15～14:45	「GX（グリーン・トランسفォーメーション）政策をとりまく動向と今後の展開」	
	清水 淳太郎	(経済産業省イノベーション・環境局 GX グループ脱炭素成長型経済構造移行投資促進課長)
14:45～15:15	「環境と調和のとれた食料・農林水産業の実現に向けて～みどりの食料システム戦略の進捗と今後の展開～」	
	西 経子	(農林水産省大臣官房審議官（技術・環境）)
15:15～15:25	休憩	

第二部 産官学連携の取組と脱炭素社会への移行における学術の役割

15:25～15:55	地域連携で挑むカーボンニュートラルの実現	
	藤井 律子	(山口県周南市長) ビデオメッセージ
	辻 佳子	(日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授)
16:00～17:20	パネルディスカッション「産官学連携と学術の役割（仮題）」	
	モデレータ	
	森口 祐一	(日本学術会議第三部会員、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会／東京大学名誉教授)
	パネリスト	
	大塚 直	(日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学院教授)
17:20～17:30	岸本 康夫	(日本学術会議第三部会員、JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監)
	閉会挨拶	
	鈴木 朋子	(日本学術会議第三部会員、株式会社日立製作所専門理事)
17:30	閉会	





日本学術会議主催学術フォーラム

STEM分野の未来を支える多様性とは..

教育・探究・キャリアをつなぐ対話!
理系の男女差を解決する鍵は、
小中教育?家庭?地域?

令和8年

2/21.土
10:30~17:35

会場 日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

我が国における STEM(科学・技術・工学・数学)への女子の進出は、世界的に見ても著しく低く、長年にわたる社会的課題となっています。進学率や就業率といった量的側面にとどまらず、その背景には、学童期から積み重なる「理数科目への苦手意識」や、無意識の偏見、情報・体験の不足、そして将来像の不透明さが横たわっています。こうした課題は、個々の進路選択の問題ではなく、教育制度・社会文化・キャリア設計を含む構造的な問題としてとらえる必要があります。

本フォーラムでは、まず教育心理学と社会学の視点から、女子生徒が STEM 分野に対して抱える心理的ハードルや、進路からの“離脱”が生じるメカニズムについて明らかにします。その上で、女子中高一貫校や SSH 高校における具体的な教育実践を紹介し、生徒に“面白さ”や“自分ごと”として科学を届けるための試みを共有します。さらに、合宿形式での探究型学習や大学や学協会主催の科学体験プログラム、物理学・数学・情報科学など多様な分野における先進的な取り組みを通じて、STEM 分野における学びの拡張と社会とのつながりを再発見します。

また、AI や宇宙、気候、課題解決といった分野で活躍する STEM 人材の職業像を紹介し、「理系=研究者」「女子は理系に向かない」といった古い枠組みを問い直し、STEM 分野が切り拓く新たな職業の可能性についても紹介し、理工系進路の魅力を再提示します。最後のパネルディスカッションでは、教育・社会・ジェンダー・キャリアといった多角的な視点から、「誰もが STEM を自由に選び、活躍できる社会」を実現するための課題と可能性を議論します。

ハイブリッド開催

参加費無料

お申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0358.html>

申込締切 令和8年2月17日(火) 事前参加登録をお願いします。



主 催

日本学術会議

問合せ

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

TEL 03-3403-6295



STEM分野の未来を支える多様性とは： 教育・探究・キャリアをつなぐ対話-- 理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？家庭？地域？

コーディネーター

市川 温子 (日本学術会議第三部会員／東北大学大学院理学研究科教授)

新永 浩子 (日本学術会議連携会員／鹿児島大学学術研究院理工学域理学系准教授)

伊藤 由佳理 (日本学術会議第三部会員／東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授・副機構長)

島岡 まな (日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授)

三枝 信子 (日本学術会議第三部会員・副会長／国立研究開発法人国立環境研究所理事)

スケジュール

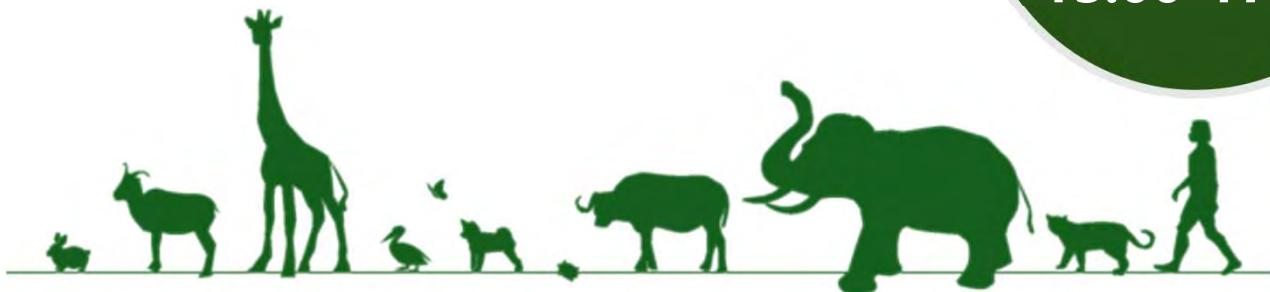
10:00～10:30	受付
10:30～10:35	開催挨拶 奥 篤史 (文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課長)
10:35～10:40	趣旨説明 新永 浩子 (日本学術会議連携会員／鹿児島大学学術研究院理工学域理学系准教授)
10:40～12:30	第Ⅰ部：問題提起 - 離脱の構造を読み解く 司会 市川 温子 (日本学術会議第三部会員／東北大学大学院理学研究科教授) 10:40～11:10 講演1 「科学技術・学術分野の男女共同参画の現状と内閣府における取組」 関口 隆 (内閣府 男女共同参画局 推進課 課長補佐) (講演 20 分講演 10 分質疑応答) 11:10～11:40 講演2 「中学生の『数学嫌い』、『理科嫌い』は本当か」 内田 昭利 (大分大学大学院教育学研究科教授) (25 分講演 5 分質疑応答) 11:40～12:10 講演3 「STEM 分野の女性の動向：学童期から高等教育～社会人以降まで」 臼井 恵美子 (日本学術会議第一部会員／一橋大学経済研究所教授) (25 分講演 5 分質疑応答) 12:10～12:30 第Ⅰ部 ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員
12:30～13:30	休憩
13:30～14:45	第Ⅱ部：学校教育現場からの実践報告 司会 笠 潤平 (日本学術会議連携会員／香川大学名誉教授) 13:30～14:00 講演4 「数学の魅力を伝える授業を目指して～学校設定科目「数学探究」での取り組みを中心に～」 十九浦 美里 (お茶の水女子大学附属高等学校 教諭) (25 分講演 5 分質疑応答) 14:00～14:30 講演5 「地方の小中高一貫校が目指すグローバル科学教育——夢のつばさプロジェクトの実践から」 山崎 巧 (池田学園中学・高等学校 副校長) (25 分講演 5 分質疑応答) 14:30～14:45 第Ⅱ部 ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員
14:45～14:55	休憩
14:55～15:35	第Ⅲ部：探究と体験の中で育つ STEM 的まなび「自ら問い、つながる学びへ」 司会 藤井 良一 (日本学術会議連携会員／(公財)日本極地研究振興会理事長／情報・システム研究機構国立研究所特任教授) 14:55～15:25 講演6 「“夏学”に見る体験型 STEM 教育の可能性」 山本 文子 (芝浦工業大学工学部教授) (25 分講演 5 分質疑応答) 15:25～15:35 第Ⅲ部 ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員
15:35～16:15	第Ⅳ部：未来を描く - STEM 分野の新しい職業像“理工系の仕事”をもっと自由に」 司会 伊藤 由佳理 (日本学術会議第三部会員／東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授副機構長) 15:35～16:05 講演7 「STEM から STEAM へ — 多様性がつくるイノベーションと未来のキャリア」 鈴木 朋子 (日本学術会議第三部会員／株式会社日立製作所専門理事／研究開発グループ技師長) (25 分講演 5 分質疑応答) 16:05～16:15 第Ⅳ部：ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員
16:15～16:25	休憩
16:25～17:30	第Ⅴ部：パネルディスカッション コーディネーター 新永 浩子 (日本学術会議連携会員／鹿児島大学学術研究院理工学域理学系准教授) パネリスト 横山 広美 (日本学術会議連携会員／東京大学 国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 学際情報学府 教授) 高橋 英則 (東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター・木曾観測所助教) 腰原 伸也 (日本学術会議第三部会員／東京科学大学教育本部特命教授／筑波大学数理物質系客員教授) 島岡 まな (日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授) 城戸 未宇 (鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程 3 年 日本学術振興会特別研究員 (DC2)) 奥 篤史 (文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課長) 17:10～17:30 第Ⅴ部：ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員
17:30～17:35	閉会挨拶 腰原 伸也 (日本学術会議第三部会員／東京科学大学教育本部特命教授／筑波大学数理物質系客員教授)

One Health 時代における 獣医学の使命 —くらし・いのち・地球を繋ぐ—

日 時：令和8年2月21日（土）13時-17時
場 所：オンライン開催

2026

2/21
13:00-17:00



司会：水谷哲也（東京農工大学ワンウェルフェア高等研究所・教授）

13:00-13:10 開会の挨拶 堀正敏（日本学術会議会員、東京大学・教授）

13:10-13:40 One Health for One Future: 健全な生活環境を次世代に
堀内基広（北海道大学 One Healthリサーチセンター・教授）

13:40-14:10 ワンウェルフェア×獣医工連携：ヒト・動物・環境の“心地よい”共生
大場真己（東京農工大学 ワンウェルフェア高等研究所・准教授）

14:10-14:40 One Welfareの実現に向けて：法獣医学の観点から
田中亜紀（日本獣医生命科学大学 ワンヘルス・ワンウェルフェアセンター・教授）

14:50-15:20 ヒトと動物の互恵的共生：麻布大学の新たな試み
菊水健史（麻布大学 ヒトと動物の共生科学センター・教授）

15:20-15:50 Sharing Medicineの現在地と未来：ヒトと動物の医療連携の可能性
前田貞俊（岐阜大学 One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター・教授）

15:50-16:20 地域ニーズに応えるワンウェルフェア～獣医学で高める動物と人のQOL～
牛根奈々（山口大学One Welfare国際研究センター・助教）

16:30-17:00 パネルディスカッション

17:00-17:05 閉会の挨拶 堀内基広（北海道大学・教授）

ご登録は
こちらから





日本学術会議公開シンポジウム

いま、「排外主義」を考える ——共に生きる社会は可能か？——

2026年

2月21日 土

13:30~16:00

オンライン開催

事前参加申込み制
(2月19日〆切、先着順)

申込み URL <https://kansaigaidai-university.form.kintoneapp.com/public/20260221gakujutsusympo>



近年、国際社会では、グローバル化がますます進む中で、移民・難民に対する排斥の動きが顕在化している。日本では、「外国人」に対する制度的・社会的排除や、「外国人」憎悪をあおる言葉の拡散など、「排外主義」的な状況を目にする機会が増えている。それでは何が「排外主義」なのか。現在の外国人・移民政策にはどのような背景があるのか。人種差別や人権侵害に触れる問題はないのか。そもそも多様な出身・文化背景をもつ人びとが共に生きることは可能なのだろうか。

本シンポジウムでは、これらの問題を研究してきた専門家がその知見と問題意識を共有し、続いてそれぞれの現場における実践から、共生社会を実現するためのヒントを共に模索したい。

開会の挨拶 小長谷有紀（国立民族学博物館）

趣旨説明 竹沢泰子（関西外国語大学）

第一部 「排外主義」を考える

司会：吉村真子（法政大学）

講演1 現代日本における排外主義

高谷 幸（東京大学）

講演2 「排外主義」と憲法・国際人権法・人権法

江島 晶子（明治大学）

話題1 ヨーロッパの排外主義

稻葉奈々子（上智大学）

話題2 公人による人種差別の助長・扇動行為

村上正直（奈良大学）

第二部 現場からの共生への展望

司会：鈴木茂（名古屋外国語大学）

話題3 多文化共生社会における自主夜間中学の意義

田巻松雄（宇都宮大学）

話題4 難民・外国人労働者支援の現場から見えるもの

坂西卓郎（PHD協会）

話題5 地方自治体における多文化共生施策

大西楠テア（東京大学）

全体討論

閉会

公開シンポジウム
「Nature-based Solutions：自然に根ざした社会問題の解決に向けて」

主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
共 催：国立研究開発法人国立環境研究所、SIP 魅力的な国土・都市・地域づくりを評価するグリーンインフラに関する省庁連携基盤、環境省環境研究総合推進費戦略的研究開発領域 S-21 「生物多様性と社会経済的要因の統合評価モデルの構築と社会適用に関する研究」、環境省環境研究総合推進費気候変動領域 2-2402 「太平洋環礁国における気候変動に強靭な社会のための NbS 研究」
後 援：公益社団法人地理学連携機構
日 時：令和8（2026）年2月23日（月・祝）14:00～17:00
場 所：オンライン開催（一般の方もご参加いただけます）

開催趣旨

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会は、提言「未来の学術振興構想（2023 年版）日本学術会議」に、「地球の環境事変にレジリエントな地域形成に向けた戦略構築」を提案し、リスクに基づく地域性の把握と、介入策としての Nature-based Solutions (NbS) の重要性を示した。今回のシンポジウムは、「未来の学術振興構想」の具体化に向け、NbS に関して、気候変動等の環境変化の激甚化への対応や、文化や生産活動を含む人間生活の向上など、さまざまな社会課題に対する応用可能性を示し、実装に向けた社会変革について考えるものである。

次 第

14:00-14:05 開会挨拶

小口 高（第三部会員／東京大学空間情報科学研究センター教授）

14:05-14:15 開催趣旨

山野 博哉（連携会員／東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授／国立環境研究所生物多様性領域上級主席研究員）

14:15-15:30 NbS の可能性

NbS の基盤：地形、土地条件、ハザードマップ

南雲 直子（国立研究開発法人土木研究所水災害研究グループ専門研究員）

ウェルビーイング、生物文化多様性との関わり

深町 加津枝（連携会員／京都大学大学院地球環境学堂准教授）

農業生産とさまざまな環境保全や生態系サービスを達成の両立

木村 園子 ドロテア（連携会員／ライプニッツ農業景観研究センター土地利用及びガバナンス領域・領域長／フンボルト大学ベルリン生命科学学部農学園芸科教授）

15:35 NbS 実装に向けた制度

村上 晓信（日本学術会議連携会員／筑波大学システム情報系教授）

NbS 実装のための社会変革

齊藤 修（公益財団法人地球環境戦略研究機関プログラムディレクター）

海外島嶼国への展開

茅根 創（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻海岸・沿岸環境研究室特任研究員）

16:20 NbS の現状と将来

石井 励一郎（環境省担当者）

16:30 パネルディスカッション

日本学術会議公開シンポジウム 「今こそジェンダー主流化を」

日本のジェンダー平等は世界最低レベル
男女共同参画は計画されても
社会制度・慣行のジェンダー・バイアスが実現を妨げる
いかに打開するか

総合司会：皆川満寿美（中央学院大学准教授）

13:30 開会挨拶

白波瀬佐和子（東京大学大学院特任教授）

報告1 「ジェンダー主流化—国際動向と日本への示唆」

大崎麻子（特定非営利活動法人Gender Action Platform理事）

報告2 「『扶養の範囲で働く』ことが招くジェンダーバイアス」

近藤絢子（東京大学教授）

報告3 「ジェンダー統計の挑戦と課題—採用選考に関する事例を中心に」

村尾祐美子（東洋大学准教授）

報告4 「埼玉県におけるジェンダー主流化の取り組みについて」

大野元裕（埼玉県知事）

休憩（15:35～15:45）

15:45 コメント、フロアを含めた討論

コメント、司会：大沢真理（東京大学名誉教授）

16:55 閉会挨拶

柘植あづみ（明治学院大学教授）

17:00 閉会

日時：2026年2月28日（土） 13:30～17:00

会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口

参加費無料・要事前申込

定員：320人（定員に達し次第締め切ります）



申し込みは左のQRコードあるいは下記より
<https://forms.gle/UABotoAcFks7jviX9>

問合わせ先：皆川満寿美

minagawa(a)mc.cgu.ac.jp

※(a)を@に変えてお送りください。

主催：日本学術会議 社会学委員会 ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会